



医療法人 創起会

くまもと森都総合病院

病院だより
2019年 1月 第19号



2019年1月4日 仕事始め式



新春のご挨拶

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。
皆様には、それぞれの思いで、平成最後、平成31年（2019年）の新年をお迎えのことと拝察いたします。本年が皆様にとりまして、輝かしい1年となりますよう心からお祈り申し上げます。

当院としては、医療法人化後8回目、くまもと森都総合病院となって7回目、新病院に移転して2回目の迎春になります。これも偏に日頃の皆様のご支援のお蔭と、深く感謝申し上げます。

昨年有病棟診療はお蔭様でほぼ予定通りに推移してきました。また、外来診療においては長い待ち時間の解消や駐車場の渋滞緩和を目指して、9月から全診療科で完全予約制を開始し、予約窓口を「外来予約センター」に一元化しました。しかしながら、まだまだ解決すべき課題が多く、1日も早く完全に軌道に乗るよう鋭意努力中です。

新病院3年目となる今年は、「地域医療構想」や「地域包括ケアシステム」を踏まえて残された課題を一つずつ解決しながら、更なる経営基盤の確立と診療機能の充実を図って地域の中核病院として位置づけを確固たるものにする1年となります。『私たち くまもと森都総合病院は、質の高い医療を通じて地域に愛され、親しまれる病院をめざします』という病院理念のもと、「患者さんのために」ではなく、「患者さんの立場」で考える、という思いで職員一同全力を挙げて取り組んで参ります。

引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

医療法人創起会 くまもと森都総合病院
理事長・院長 藤山重俊

診療科紹介

一産婦人科

副産婦人科部長 永井隆司

産婦人科は震災以降、熊本市市民病院産婦人科の閉鎖の影響もあり、外来新患数、入院患者数共に増加していましたが、2017年4月の病院移転後は更に増加し、昨年度の年間手術件数は約360件でした。

手術は良性婦人科疾患(子宮筋腫、卵巣腫瘍、骨盤臓器脱等)が主ですが、婦人科腫瘍専門医がおり、婦人科悪性腫瘍(子宮頸部上皮内腫瘍、初期の子宮体癌)の診断や治療も行っており、術後の化学療法や終末期の緩和ケアも行っていきます。

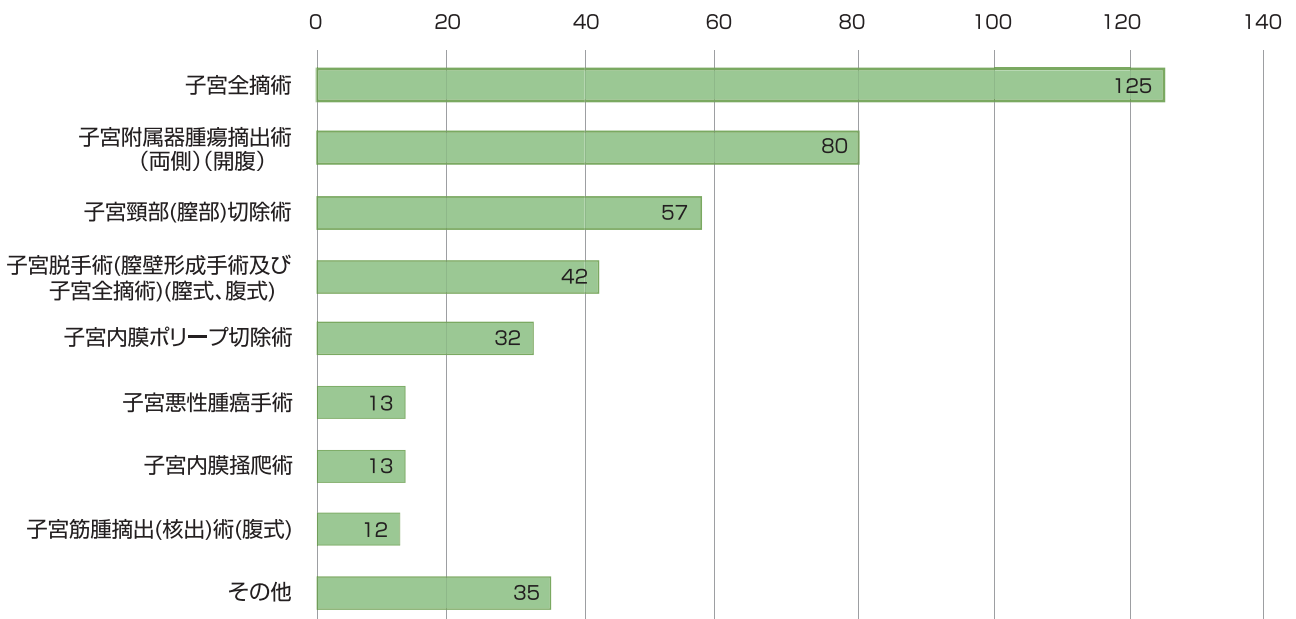
子宮筋腫や卵巣腫瘍は、腹腔鏡下手術を行う施設も多くなっていますが、当院では腹腔鏡下手術が困難と判断された巨大子宮筋腫や卵巣腫瘍の開腹手術を積極的に引き受けており、安全で合併症の無い手術を心掛けています。また、卵巣腫瘍に対しては、下腹部横切開法(恥骨上縁に3~5cmの切開)による低侵襲手術も行っていきます。



高齢化社会が進行しており、骨盤臓器脱(子宮脱、膀胱脱、直腸脱)の患者数も増加しています。骨盤臓器脱は高齢女性に好発し、排尿困難や子宮・膀胱の下垂による不快感により、生活の質を低下させるQOL疾患です。当院では本疾患に対する手術療法として、メッシュを使用しない従来の膣式子宮全摘術+膣壁形成術を行なっています。高齢者は、身体機能や精神機能の低下により、容易に要介護状態に移行しやすいため、退院後のQOL維持のため、術後の早期離床および早期退院を目指した管理を行っています。

現在日本では年間約3,000人の女性が浸潤子宮頸癌で亡くなっており、上皮内がんを含めれば、年間約30,000人が子宮頸癌に罹患しています。最近では特に若年層において、子宮頸癌の罹患率、死亡率が漸増しています。当院では子宮頸部高度異形成~上皮内癌に対する円錐切除術を昨年度は57件施行しました。手術は1泊入院で行い、手術時間は約15分で、退院翌日から通勤や通学が可能です。

2017年度 産婦人科手術実績



勤労感謝の日 病院訪問

11月23日の「勤労感謝の日」にちなんで、11月30日(金)に院内保育の「大江の森保育園」の園児たちが、勤労感謝の訪問に来てくれました。

「いつも、おしごと、ありがとうございます!!」と元気な声ともに、園児たちの手形や足形をスタンプした手作りの感謝状をプレゼントしてくれました。子どもたちの元気いっぱいの姿を見て、こちらにも負けてられないかと頑張っています。



手術室 避難訓練



12月28日(金) 予定された手術をすべて終えた手術室で、1年の締めくくりとして、火災避難訓練を実施しました。全身麻酔下手術中を想定して行いました。

平成30年は災害の多い年でしたが、どのような事態でも患者さんの安全を確保できるよう、緊急時の手順を再確認しました。

がんセミナー 開催報告

平成30年11月7日、熊本大学大学院 生命科学部環境社会医学部門 看護学講座 臨床看護学分野 准教授の柘中智恵子先生をお招きして「医療における遺伝カウンセリングの現状と課題」と題してご講演をいただきました。当院は、「質の高いがん医療」の提供を目的とした「熊本県指定がん診療連携拠点病院」の認定を受けており、その課せられた役割と責務を果たすため、がん医療の最新情

このような状況のなか、ゲノム診断後の患者さんの対応、カウンセリングがとて重要となってきます。今回の研修では、特に看護師へのメッセージとしてお話をいただきましたので、今後の看護ケアに活かせる情報を得ることができたのではないかと考えます。

当院のがん診療委員会は、年1回の職員全員の研修会と共に、毎月「がんセミナー」と「乳がんチーム医療研究会」を開催しています。「がんセミナー」は、院外の医療スタッフのご参加もお待ちしております。

今後もがん診療連携拠点病院として「質の高いがん医療」を提供できるよう、職員一同、情熱をもってがんばっていききたいと思います。 [薬剤部長 森岡淳子]



報を学ぶ機会となるよう院内の研修会を開催しています。

近年、プレジジョン・メディスン(Precision Medicine)という言葉に耳にすることも多くなってきたかと思います。オーダーメイド医療、個別化医療という言葉は、既に広く使われてはいますが、さらに「精密化した医療」という意味合いをもつプレジジョン・メディスンの根幹がゲノム医療になります。平成30年7月から使用できるようになったオラパリブは、BRCA遺伝子変異陽性の乳癌に適応を持った「遺伝性腫瘍」に対する初めての薬として登場しました。また、「がん遺伝子パネル検査」も臨床試験として日常診療で実施される時代となりました。



第1回 出張健康づくりイベント開催

“世界糖尿病デー”「11月14日」にちなみ、H30年11月13日午後1時から4時までの日程で、中央区大江公民館において『第1回出張健康づくりイベント』を開催しました。

このイベントは地域の皆さまの健康増進に寄与することを目的として、大腸肛門病センター高野病院と共同にて企画したものです。当院からは、医師・薬剤師・看護師・保健師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士・事務職員が赴き、運営にあたりました。

当日は“世界糖尿病デー”に伴い、医師・管理栄養士による糖尿病に関する健康講話の後、健康測定と健康相談を実施しました。地域住民の方をはじめ約90名のご参加をいただきました。

健康講話では、当院総合診療科の宮崎博喜が『糖尿病を防ぐ、治す、管理する』と題し講演し、「糖尿病予防には健康的な生活習慣を心掛けることが大切。医師はアドバイス役に過ぎず、あなたの主治医はあなた自身です」と意識改善を呼びかけました。参加者の方が、大きくうなずきながら話を聞いていらっしゃる姿が印象的でした。

また健康測定ブースでは体重・身長、血圧をはじめ簡易血糖測定や体成分測定などを行い、その結果に基づいて保健師・管理栄養士・薬剤師・理学療法士が、個別相談に応じました。

ご参加の方からは「日々の生活を見直す良い機会になった」「自分の身体のことがかわかって良かった」などの反響がありました。医療職を希望している学生の方から、「今は健康なので食事など気を付けていませんでしたが、将来の健康のために今が大事だと気付かされました」との感想をいただき、当院職員も病気にならないお手伝いの大切さを再確認しました。

今後も地域の皆さまに役立つ企画やイベントを実施して参りたいと思います。

(報告：地域医療連携室 橋本)

